

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

広島大学は、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(以下、SDGs)」を実現するため、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの社会インフラ整備に貢献する「人財」を育成するため、2016年3月、全国で初めてカンボジアの教育省とミャンマーの教育省高等教育局と学術交流・協力協定を締結した。この両政府の要請に基づき、全国の生命に関わるインフラ(食・医療)及びSTEM(科学・技術・工学・数学重点化)教育のためのインフラ(教育、科学)整備など、現地のニーズに即した「人財」育成事業を展開してきた。特にカンボジアとは、今後、国の発展の中心的な役割を果たす王立・国立8大学すべてと学術交流協定を結び、本学生交流事業との連携の可能性も検討中である。また、工学教育では、世界銀行の支援を受けた事業にも協力しようとしている。

**1. 養成する人材のコンピテンシー**

本事業では、国連が掲げるSDGsを踏まえた、豊かで持続可能な発展を実現できる「人財」を育成するため、これらの概念や目標を実際の公共事業やビジネスに具体化できるコンピテンシー、とりわけ「研究力」及び「社会起業力」の2つの能力の養成を図ってきた。「研究力」を要請するために、特に本事業の特色の1つでもある「国際課題研究」科目を広島大学及び広島経済大学、両校で開講し、専門領域の研究テーマを受入部局の教員が指導し、同時に国際センター・国際室の担当教員が英語での論文のまとめ方や成果発表の仕方に関する授業を行うハイブリット型研究者養成教育を展開した。また、「社会起業力」を養成するために、ミュンスター大学(ドイツ)が開発したアイデア・マイニングの手法を活用し、ブレインストーミングから具体的なアクション・プラン立案までを8時間かけて行う「PEACE-SDGsアイデア・マイニング学生セミナー」を定期的に開催し、SDGsの実現に向けた実践教育を約30名の受入れ、派遣留学生に対し提供してきた。

**2. 学習成果の測定、質保証**

学習成果の測定には、本学が開発し、様々な学生交流事業で長年利用してきたグローバル・コンピテンシー評価表を用いて、学生自身による7項目のコンピテンシー評価(5段階評価)を行い、留学前後でおおよそ1段階の変化(向上)が観察された。また、本学は留学プログラム等の教育効果を客観的に測定することを目的に、米国のジェームス・マディソン大学が共同で開発した臨床心理学に基づくBEVI(Beliefs, Events and Values Inventory)テストの日本語版(BEVI-j)を本学が独自に開発し、先駆的に取り入れている。本事業においても、このBEVIテストを参加学生に対して実施し、自身の価値観や信念の変化を客観的に測定している。平成29年度の派遣日本人学生のデータを分析したところ、特に「社会文化的オープン性(Sociocultural Openness)」及び「世界との共鳴(Global Resonance)」の点で肯定的な変化が観察され、本事業でのCLMV諸国への派遣プログラムが学生の価値観・世界観に良い影響を与えていることが示唆された。

また、教育の質保証並びに単位互換制度では、「ASEAN+3」教育大臣会議が開発を進める「留学交流のためのガイドライン」並びに東南アジア教育大臣機構高等教育研究センター(SEAMEO-RIHED)がCLMV諸国において促進するACTFA(アジア学術単位互換の枠組み)の開発・普及に直接貢献してきた本学の実績を踏まえ、本事業においてもその普及に取り組んだ。具体的には、本学が採用しているUCTS制度の理解促進に努めるとともに、1ターム以上の交換学生には、UCTS学修計画書の作成・提出を義務づけた。また、帰国後の単位互換を支援するためのUMAP成績証明書を作成し、活用している。

**【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】**

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
0人	0人	15人	14人	44人	20人	46人	36人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

**特筆すべき成果（グッドプラクティス）**【1ページ以内】**1. カンボジア並びにミャンマーの高等教育全体の学生交流を促進する国際貢献**

○ カンボジアの教育大臣との学術交流協定の締結に基づき、当該政府の省内に「広島大学－カンボジア王国教育、青少年、スポーツ省連携センター」を平成29年3月に開設し、本事業の海外拠点として活用した。また、ミャンマー高等教育局との協定の締結に関連し、平成30年1月には、本事業担当教育を派遣し、ミャンマー教育省主催の高等教育機関126校すべてを対象とした学生交流を促進するワークショップをネピドーにて開催した。

○ 国内では、カンボジア高等教育局長並びにミャンマー教育省事務次官など、両国政府の高官をはじめ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム及びタイの海外連携大学の教職員及び学生約40名、国内からは文部科学省関係者をはじめ本学と連携大学の教職員及び学生約60名の参加者を得て、平成29年3月に本事業のキックオフ・ミーティングを開催し、CLMV諸国の学生交流の今後の在り方について意見交換をした。また、同年11月には、カンボジア王立及び国立の8大学(王立芸術大学、国立経営大学、王立法律・経済大学、王立農業大学、カンボジア工科大学、プレックリープ国立農業大学、王立プノンペン大学、国立健康科学大学)の学長及びカンボジア教育・青少年スポーツ省高等教育局の副局長を招へいし、24の国内高等教育関係機関(国公立大学及び国立大学協会)の関係者が出席する形で国際シンポジウムを開催した。国際シンポジウムを通して、カンボジアを将来牽引する大学連合と国内の大学との連携を促進することができた。そして、本学もすでに協定を締結している2大学を除いた6大学と大学間協定を締結し、今後のカンボジアにおける本学の学生交流事業並びに研究協力の枠組みを拡大した。

**2. 「広島で学べる平和学習」「広島から発信する平和学習」の実践**

○ 本事業で本学に受け入れる留学生に対して、本学所在地である「ヒロシマ」という地域の特性を生かした平和学習を展開した。具体的には、平成29年度に受け入れた全ての留学生に世界遺産である原爆ドームや平和記念公園訪問、平和記念資料館等での研修による平和学習を実施した。また、8月6日の平和記念式典への参加及び同日の平和に関する意見交換会への参加、広島原爆養護ホーム「舟入むつみ園」の入居者(被爆者)と共同で平和の象徴である鳩のオブジェを制作する機会を提供した。さらに平和学習科目では、原爆投下時の貴重なデータを保管する広島市江波山気象館並びに平和記念資料館へ、本事業以外の交換留学生と共に毎ターム(年間3回)引率し、原爆投下時に起きた気象現象の特異性を学び、また被爆者による講和を通じて、核兵器がもたらす影響について科学的、かつ人道的観点から具体的に学ぶ機会を提供している。

**3. クリエイティブで実践的なコンピテンシーを要請する国際+専門+経営のハイブリット型教育実践**

○ 1ターム以上在籍する受入れ留学生に対しては、国際+研究のハイブリット型教育実践として「国際課題研究」科目を開講し、それぞれの専門領域の研究を所属部局の指導教員の下で行うと共に国際センターの教員による国際的に通用する論文の書き方や研究成果の発表方法に関する実践的なトレーニングを提供してきた。

○ 本事業の目標である「社会起業力」育成に向けた教育として、ミュンスター大学(ドイツ)から専門家を招へいし、SDGsアイデア・マイニング学生セミナーを、本学並びに連携校である広島経済大学において実施し、両校の参加教員は、ファシリテーターとしての養成を受けた。今後はこの研修を修了した両校の大学教員によるアイデア・マイニングセミナーの単独開催が正式に可能となった。将来的には実践経験を積むことで、本手法の他大学への普及にも積極的に取り組んで行く計画である。

○ 国際+専門+経営のハイブリット型教育実践として、平成30年3月に本学の学生(中国・韓国からの一般留学生含む)を引率し、1週間の短期派遣研修ツアー「カンボジア・スタディツアー」を実施した。研修ツアー期間中は、協定大学である王立プノンペン大学だけでなく、平成29年11月に新たに学術交流協定を締結した王立法律・経済大学や王立農業大学などを訪問し、本学の学生が、カンボジアの現状についてそれぞれの専門家から特別講義を受ける機会を設けた。そして、カンボジア国立経営大学では、SDGsアイデア・マイニング学生セミナーを開催し、現地の教育問題(SDG Goal 4)について、現地協定大学の学生と共により具体的かつ実践的なアクション・プランを立案する機会を提供し、国際的な課題を異なる専門分野、文化を持つ学生同士が共同で検証し、解決するグローバル・コンピテンシーの養成を図った。